

土壌酸度(pH)試験

土壌pHとは、土と平衡状態にある土中水の水素イオンのモル濃度 [H+] の逆数を常用対数で表したもので、酸性、アルカリ性を示す指標です。現地法面の土壌をサンプリングして、pH(H2O)を調べて、pH4.0以下、9.0以上なら、対策の検討が必要です。



検査方法 土壌に差し込み3分ほど待ちます。土壌が乾いている場合は周りに純粋(pH7.0)をかけて測定します。



土壌硬度試験

土壌硬度とは貫入式土壌硬度計を用いてのり面の貫入長で表わされる土壌の硬さを指します。貫入長はコーンに剛結された部材が後続する円筒内部に押し込まれた長さを読みます。※貫入長はmmで表します。硬度数値で植物の根の伸長具合を判断します。



検査方法 土壌に差し込み1地点につき3箇所測定します。平均値をその地点の測定結果とします。



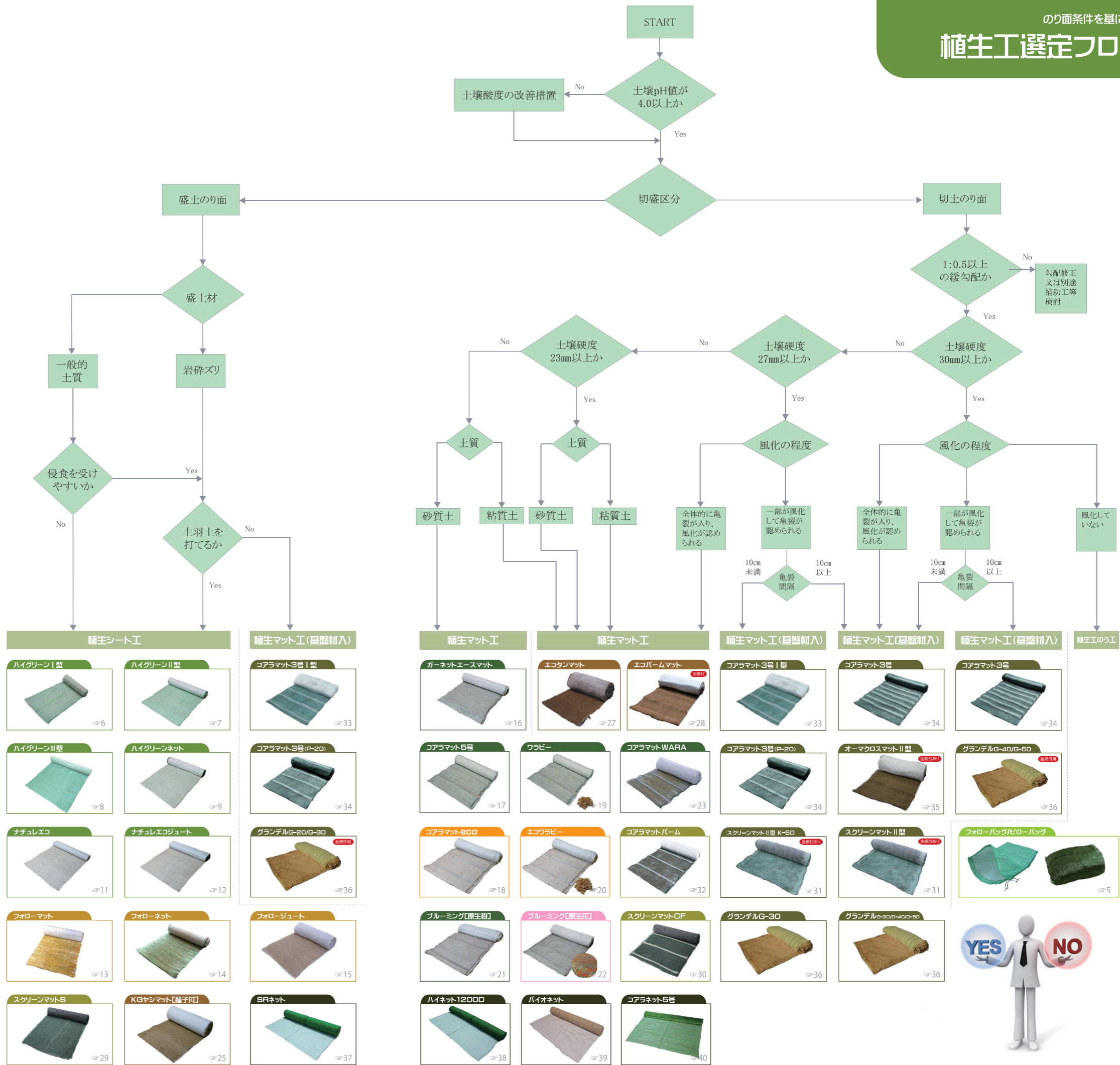
種子配合選定(メリットとデメリット)

一般配合... **メリット** 土壌適応能力が高く安定した緑化が可能。発芽も早く早期緑化に期待できる。
デメリット 群生能力が高い為、比較的草丈が高い品種が多い。都道府県によっては使用禁止の品種が含まれる。

短草配合... **メリット** 草丈が(〜30cm、〜50cm)程度と低く、群生後の景観性が良い。品種改良された種子は環境適応能力が向上している。
デメリット 草丈に比例して根の伸長がある為、土壌の緊縛力が少ない。品種によっては発芽、生育が遅い。

在来種... **メリット** 日本の風土に沿った緑地を形成することが出来る。群生後の衰退が少なく、長期に渡って緑地を維持できる。
デメリット 在来種は発芽が遅い為、早期緑化には適さない。また、発芽までの種子の流亡対策が必要。

のり面条件を基にした 植生工選定フロー



- 植生土のう
- 植生シート
- コンクリート
- 植生マット
- 肥料袋付
- ヤシ繊維
- 侵食防止
- 基盤材入
- 植生マット
- 繊維ネット
- その他

